

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人仁秀会		
事業所名	グループホームたいよう		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219番地42 (電話) 0983-25-5887		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月27日

## 【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤3人, 非常勤4人, 常勤換算4.45人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	4	要介護2	1
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 88.4歳	最低 74歳	最高 101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ながとも医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道から西側に入り込んだ田園地帯に位置しており、敷地内には同一法人のデイサービスがある。ホームの食堂には「みんなで仲良く元気に楽しく」のキャッチフレーズが掲げられ、利用者の笑顔の写真が飾ってあり、和やかな雰囲気醸し出されている。職員は利用者へ寄り添うケアを心がけており、言葉に出せない思いをキャッチできるよう常に心配りをしている様子がうかがえる。また、食事の合間あいまのおしゃべりは職員・利用者共に笑顔があふれる、とても楽しい時間となっている。意欲的に摂取される食事でも全員完食され、今年も風邪などのり患者がいないとのことにも納得できる。何よりも一人ひとりの穏やかな表情が、ホームの居心地のよさを表している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム便りとして、たいよう通信「ほほえみ」の発行に取り組み、すでに第3号を作成中である。また、その他の項目についても、管理者、職員全員が意識を持ち、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は全職員理解しているが、今回は管理者がまとめたものを全職員が意見等出し合うことにより、自己評価作成に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催されており、毎回出席者も多く活発な討議がなされている。例えば、ボランティアの受け入れや小学生との交流などを通して、地域とのつながりを持つための助言を頂いたりしてサービスの向上に生かすための取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族にとっては満足度が高く、苦情・不安等は少ない。運営者はじめ全職員はそのことに対して、甘んじることなく家族の来訪時には情報交換を積極的に行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事参加への誘いを受けたり、散歩や買い物で外出した時などに声をかけてもらったり、また、近所の方が野菜を持ってきてくれたりと地元の人々との日常的なつきあいができている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの思いを大切に、利用者と共に考えたモットーを掲げ、地域の中の一員としてあたりまえの暮らしを支えていく、独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日ごろから共に意識し、話し合い実践が理念に基づくよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の祭りに参加したり買い物などの外出時に地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は運営者はじめ、全職員理解しており日々のケアの中で評価を生かして質の向上に向けて取り組んでいる姿勢がうかがわれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、それぞれの委員により報告や意見が出され、それをもとに地域密着型サービス向上に生かした取り組みがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に行き来する機会はないが、担当者が介護保険の相談等で来訪する時等を利用して、話し合いを持つようにしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「ほほえみ」を発行して家族に暮らしぶり等を伝えている。また、来訪時には個々の報告や、家族との情報交換も行っており、金銭出納帳にも確認印をもらうなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口は家族にも周知してもらっているが、出されないのが現状である。家族会を通して意見等出してもらう取り組みもされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、異動も隣接の同法人であるため利用者に与える影響は少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者はさまざまな研修の案内を全職員に提示し、それぞれの段階に応じた研修への参加を推奨している。月1回の職員会議においても内部研修等の勉強会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年に4回開催される、地域グループホーム連絡協議会の会議において、情報交換や交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに遊びに来て頂いたりして、雰囲気になじみながら安心してサービス利用に移行できるよう柔軟な支援がなされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り添うことで、何か1つでも思いを感じ取れるよう、職員は「気づき」の感性を持って、共に学び、支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で、言葉の裏にある心の言葉をくみ取る努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケア会議において意見やアイデアを出し合い本人に沿った介護計画に結び付けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しを行っているが、状況に変化が生じた場合は話し合いを持ち、現状に即した計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合により、通院介助を行ったり、また、墓参りや外出など利用者の希望に沿った支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの掛かりつけ医の受診支援が行なわれており、協力医療機関からの月1回の往診の支援もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	段階的に家族と話し合う機会は持たれているが、具体的な方針の共有までには至っていない。	○	重度化や終末期に対しての指針を明確にし、サービス利用の早い段階から家族や本人との話し合いが持たれるよう、重要事項説明書等において文章化されることを望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の言葉かけも丁寧で、ホーム便り等の写真掲載においても本人、家族の了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に沿った支援が行なわれており、思いを伝えられない方へは、職員同士の話の中で見いだす努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや味付けを一緒に行ったり、時には利用者の得意料理が一品加わったり、職員も一緒にテーブルで会話をしながら楽しく、また、一人ひとりがしっかり味わいながら食事を摂取している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴支援がなされている。午後の時間帯に組まれているが、利用者も楽しみにされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、生け花、裁縫をされる方、また、習字が得意で掲示物を作られている方、それぞれの役割を生き生きと楽しまれている様子がうかがえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の散歩や買い物、ドライブ等戸外へ出かける機会を多くつくり、一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう計画されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は全職員理解しており、日中は鍵をかけておらず、それに際しての見守りケアも行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の防災訓練は実施されているが、夜間時の対応についての不安を全職員が抱えており、特に火災時の訓練の必要性があると思われる。	○	夜間を想定した避難訓練を実際に利用者も交えて行なうことにより、不安の解消につなげていただきたい。地域の人々や消防の協力は運営推進会議でも呼びかけてもらい、訓練にも参加してもらうことも検討していただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事支援がなされており、ほとんどの方が完食される。また、法人内の栄養士により栄養バランスの見直しも計画されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間は室温も調整されていて快適である。季節の花も生けられ、部屋の一角には段飾りのおひなさまが華やかに飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い込まれたタンスやベッド、壁には家族の写真等も飾られていて、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。